

「 ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ 」

～ 第3回 フォレストキャンプ ～

- 1 趣 旨 福岡県内に住む小学校3・4年生の児童を対象に、各青少年教育施設での特色やSDGs、ワンヘルスを生かした自然・生活体験と「鍛ほめ福岡メソッド」を位置付けたプログラムを経験させることを通して、自尊感情や向上心、困難に立ち向かう心等を伸ばし、自律的に成長するための基礎を養う。
- 2 主 催 福岡県国公立青少年教育4施設連携協働事業実行委員会  
国立夜須高原青少年自然の家 福岡県立社会教育総合センター  
福岡県立英彦山青年の家 福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 3 主 管 福岡県立英彦山青年の家
- 4 期 日 令和4年12月10日(土)～12月11日(日)【1泊2日】
- 5 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 6 対 象 福岡県内に住む小学校3・4年生の児童 計24名
- 7 参 加 者 24名(小3:12名、小4:12名、学生ボランティア4名)
- 8 日 程 ○12月10日(土)  
開会式(アンケート)、ようこそ夜須高原の森へ(自然散策)、昼食(レストラン弁当)、竹シェルターづくりに挑戦!、野外炊飯(豚汁定食)、振り返り、竹シェルター宿泊  
○12月11日(日)  
野外炊飯(ホットサンド)、ご褒美タイム、昼食(レストラン)、振り返り、閉会式(アンケート)

9 活動の実際



【開会式】



【ようこそ夜須高原の森へ】



【竹シェルターづくりに挑戦!】



【野外炊飯(豚汁定食)】



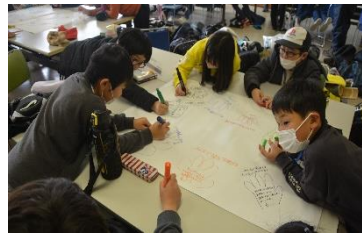
【竹シェルター宿泊】



【野外炊飯(ホットサンド)】



【ご褒美タイム】



【振り返り】



【集合写真】

## 10 感想

- ちょっと難しかったけど、それがあったから、みんなの仲が深まった。
- 色々やるのが大変だったけど、とても成長できたと思う。
- 最後まで頑張ろうという気持ちが出てきた。
- 自然や暮らしについて知った。
- 竹を使って色々な物を作ることができるのをはじめて知った。
- 家では沢山便利な物があるけど、このキャンプでは、自分の力でやって大変だったけど、その大変さが分かった。
- 大人がホットサンドを失敗してたから、大人も失敗するんだなと思った。

## 11 成果

- 開会式では、事業の趣旨（目的）と活動内容について、前回（英彦山）の振り返りや、今回（夜須高原）のめあての確認を行った。その後、Beingを用いて個人の目標設定や、1日目の最後に焚き火を囲みながら活動の振り返りを行った。また、2日目の振り返りでは、自分ができたことや頑張ったこと、仲間の良さを発表し合う場を設定した。参加者たちは2日間のキャンプを通して、大変意欲的に取り組むことができ、自尊感情の向上につながった。
- 「ようこそ夜須高原の森へ」では、SDGsやワンドヘルスの視点を取り入れた森の仕組みについて具体的な説明をしながら自然散策を行ったことで、山・川・海について理解を深めることができた。また、グループごとでの竹シェルターづくりや宿泊体験、野外炊飯（豚汁定食・ホットサンド）などグループ活動を多く取り入れた。そのため、グループ活動の楽しさや難しさ、仲間と協力する良さを学ぶことができた。特に竹シェルターづくりでは、グループで声を掛け合ったり、お互いに作業を手伝ったりする姿が見られ、自他の良さを認め合い、仲間とともに困難に立ち向かう心を伸ばし合うことができた。
- IKR調査（事前・事後）を実施したところ、「生きる力」の変容は8.3ポイント、「心理的社会的能力」の変容は6.1ポイント、「徳育的能力」の変容は1.5ポイント、「身体的能力」の変容は0.7ポイント向上した。従って、参加者にとって有意義な活動となったことが分かった。

## 12 課題

- 福岡県立3施設との共催事業として実施した。参加者にとって有意義且つ各施設の特徴を生かした質の高い体験活動を提供するためにも、年度当初に事前・事後会議の日程などの年間計画の作成、4施設の連携・協働体制の在り方、事業の趣旨や段階的で連続性のあるプログラム内容の検討など、計画的・組織的に取り組んでいく必要がある。
- 本年度、ボランティア募集に困難を要した。来年度は、主管施設が早い段階から広報を行ったり、大学等に出向いたりして、4回とも参加できるボランティアを早期に確保していく必要がある。